

資源循環の推進

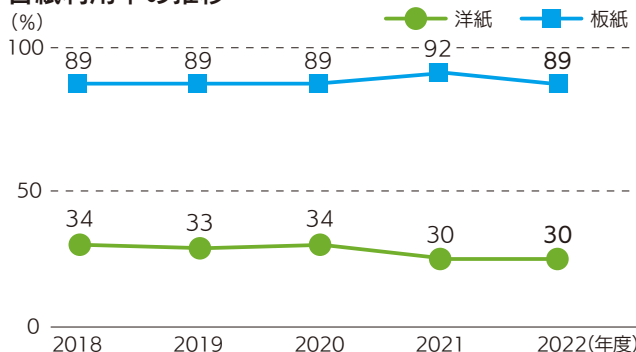
1 基本的な方針

📖 →P83 日本製紙グループ環境憲章

2 古紙利用の取り組み

当社グループは、古紙を重要な原材料と位置付け、未利用古紙のリサイクルに取り組んでいます。

古紙利用率の推移(国内*)



※ 2021年度からクレシア春日も対象範囲に含んでいます

事例

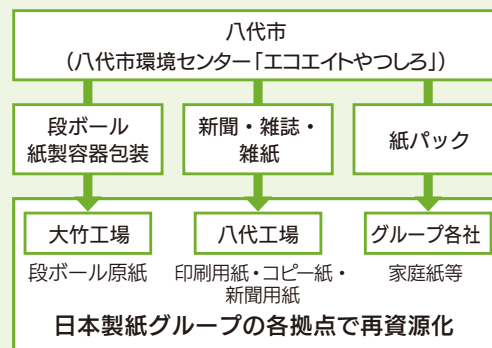
使用済み食品用紙容器のリサイクル協働事業(日本製紙)

当社は2021年4月より、浜松市の後援を得て、アイスクリームなどの食品用紙容器の自主回収テストを実施しています。これは、浜松グリーンウェーブ株式会社および特定非営利活動法人エコライフはままつととも、浜松市の環境啓発施設「えこはま」等に回収ボックスを設置、使用済み紙容器を回収し、当社の工場で製紙原料として使用する新たな再資源化事業です。これにより、一般消費者のリサイクル意識向上、焼却ごみの量の削減、木質資源の長期利用による炭素固定に貢献します。

事例

自治体との協働による古紙の循環利用

当社八代工場では、八代市と連携し、八代市内で発生する古紙をリサイクルするシステムを構築しました。八代市が回収した多様な古紙(新聞・雑誌・雑紙・段ボール、紙パック、紙製容器包装)を、八代工場をはじめとする当社グループの工場が受け入れ、古紙パルプ製造設備などの設備や技術を活かして再資源化し、紙をつくる原料として使用します。



「クローズド・ループ」の取り組み(日本製紙)

回収された新聞古紙やカタログ用紙を長期的かつ安定的に原料として資源循環させるため、当社は、お客さまが回収した古紙を直接買い受ける「クローズド・ループ」というスキームを構築しています。2023年4月には、新たに株式会社DINOS CORPORATIONと、カタログ古紙の「クローズド・ループ」の構築による資源の国内循環を目的として、古紙の売買および循環に関する契約を締結し、運用を開始しました。

紙コップ回収リサイクル(日本製紙)

当社は、2019年より本社オフィス内で使用された紙コップを回収し、足利工場において段ボール原紙の原料としてリサイクルする取り組みを行っています。2022年度は、15万個の紙コップを回収しました。

飛行機内サービスで使用した紙コップ収集リサイクル(日本製紙)

当社は2022年12月より、日本航空株式会社(以下、JAL)と協働し、紙コップ等のリサイクルを開始しました。JALグループが機内サービスで使用した紙コップ等を適切に分別・回収し、当社グループが輸送、集積、梱包を行う独自ルートを構築することにより、使用済み紙コップ古紙の分別収集・リサイクルが実現可能となりました。現在は段ボールやトイレトーパーペーに再生していますが、将来は紙コップから紙コップへと再生する水平リサイクルの実現を目指します。

紙パックリサイクル『PakUpcycle®』

当社は、「Pak」(飲料用紙パック)と「Upcycle」(不用品を、商品としての価値を高める加工を行い再利用すること)を合わせた造語『PakUpcycle®』(パックアップサイクル)というキャッチフレーズのもと、さまざまな取り組みを行っています。

〈紙パック回収リサイクル〉

グループ各社の拠点に紙パック回収ボックスを設置し、従業員に対し、紙パックリサイクルの意識啓発に取り組んでいます。また、紙パックの回収を、社会全体で資源を有効活用するための活動と位置付け、回収事業者と連携し、各種施設・学校などへリサイクルの働きかけを強化しています。2017年から、練馬区を中心に当社独自の方式により回収(2022年度実績:3.7トン)しており、家庭紙の原料として使用しています。

〈飲料用アルミ付紙パックのリサイクル〉

飲料用アルミ付紙パックのリサイクル工程で廃棄物処理されている、ポリエチレンとアルミニウムの混合物(以下ポリアル)をマテリアルリサイクル※するため、株式会社リプロと萩原工業株式会社と協働でポリアルの用途開発に取り組んでいます。ポリアルを原料に使用した境界杭が、複数の森林組合で採用されています。

※ 廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法